



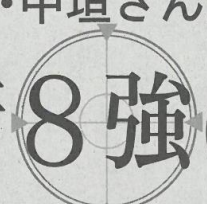
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高 2018

神戸新聞 平成31年3月18日 (月)

ライフル射撃 氷上西高・中垣さん全国大会へ

磨いた技術8強に照準



2度目の全国大会へ向けて意気込む中垣諒太さん＝氷上西高校

フォーム改善へ基礎徹底

25日から宮城県石巻市で開かれる「全国高校ライフル射撃競技選抜大会」に、氷上西高校(丹波市青垣町佐治)のライフル射撃部2年、中垣諒太さん(17)が出場する。全国大会の常連となりつつある同部だが、部員は現在、2年生7人のみ。2度目の全国挑戦を前に、中垣さんは目標は8強。活躍して後輩にかっこ良さをアピールし、部員増につなげたい」と意気込む。(大田将之)

出場種目は「ビーム・ライフル立射60発競技」。光

◎25日から宮城◎

線銃を使い、10メートル先の目標を直径約4・5センチの的を狙う。制限時間は45分で60発分の合計点数を競う。「ライフル」という言葉の響きにかっこ良さを、「少年心をくすぐられ、入部を決めた。専門のコーチは不在だが、OBに指導を仰いだり、チームメイトと知恵を絞ったりして、着実に腕を磨いた。

「50位以内」を目標に掲げた昨夏の全国大会。95位という結果に「大舞台の雰囲気にもまれた。ふがいない」と悔やむ一方、「これまで感覚頼りでやってきたけど、全国では通じないことが分かった」と力不足を真摯に受け止め、成長の糧とすることを誓った。

あの惨敗を教訓に、感覚派から理論派に生まれ変わった中垣さん。「的から変わるのには、何か理由がある」と考えるようになり、ライフルを構えたまま3分以上立ち続けたり、ひたすら引き金を引き続けたりと、基礎訓練から取り組み直し、フォームの根本的な改善に励んだ。

一皮むけて臨んだ昨年11月の近畿予選では、公式戦自己ベストを記録し、全国の切符をつかんだ。予選のスコアは、出場者23人のうち下から4番目だが、「下をいっしょにやります」と気合を入れ、「あがり症なので、一発一発、落ち着いて、自分を失わないようにしたい」と活躍を誓う。